



R.I.District2610. ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ

2014-2015 年度 R I 会長 ゲイリー・C.K.ホアン
2014-2015 年度 魚津RC会長 平崎 暉夫

2942回例会
2014.11.7
ホテル
サンルート魚津

1月から基礎控除減額

相 続 税

定額5千万は3千万に 課税対象拡大1000人あたり6人

中澤豊魚津税務署長が卓話

第2942回例会は7日、ホテルサンルート魚津で開かれ、中澤豊魚津税務署長に卓話していただきました。中澤署長は来年1月から基礎控除額が減額される相続税の仕組みなどについて話されました。



要旨

来々年1月から基礎控除が下がる。下がるというのは増税につながることはあるが、バブル期に土地価格が上がるので、それでは大変だろうと基礎控除を上げていったという背景がある。バブルが崩壊し、土地の値段が下がっているのに基礎控除がそのままというのはおかしいということなので下げることになった。

では、どれほどの方に相続税がかかっているか平成24年に全国で亡くなった方は125万人ほど、その中で相続税がかかった人は5万2千人だった。4・2%、100人亡くなると4人ちよっとということになる。

金沢国税局管内では3万3700人が亡くなり、1090人が課税された。3・2%だった。1000人のうち97人が課税になっっていないということだ。基礎控除が下がることによって、この数字がど

のように変わるのか。いろんな計算があるが、1・5倍ぐらいになるとみられている。

現行の基礎控除額は、5千万円+(1千万円×法定相続人の数)だが、1月からは3千万円+(600万円×法定相続人の数)となる。

では、養子をたくさんもらって法定相続人の数を増やせばいいのではないかと、相続税の計算の上では養子は実子が認められない、実子がいない場合は2人までにしますと法律を変えている。

基礎控除の他に税率の見直しもある。6億以上は今まで50%だったのが55%に、2億から3億の部分も40%から45%に変わる。

上げるだけではなく、未成年者控除については20歳に達するまで1年につき6万円だったのが10万円に、障害者控除も引き上げられた。

また、配偶者控除は遺産額が1億6千万円までか、法定相続分相当額までだと課税されない。財産形成は、配偶者の力もあるということがこの規定に盛り込まれている。

言葉の意味が、時代の流れで変化する例はいくつもあります。滝川クリステルさんの一言で脚光を集めている「おもてなし」も、ある時期に変わったとされる興味深いお話を聞く機会がありました。

話していただいたのは、茶道裏千家の筒井如是庵先生。お茶会で京都からお出でいただきました。

筒井先生によると「もてなし」

は本来「物事を処理する」という意味で源氏物語にも

出てくるそうです。現代の私たちが持っている「人を招いて厚く遇する」という感覚とはずいぶん違うものだと驚きました。

赤がオレンジになった、多少意味がずれたというレベルではありません。「処理する」という極めて無機質な語感がそう思わせるのかもしれませんが。当時の「もてなし」には「心」などまったく感じられないような気がします。

では、現代のような「厚く遇する」という意味合いが強くなったのはいつごろか。1400年ごろ、足利義満のころというのが筒井先生の見解でした。

足利義満といえば尊氏の孫、室町幕府の3代将軍。金閣寺建立で知られます。少し前まで南北朝の激しい争いが続き、国の平定は困難な時代でした。人をもてなすこ

とが、現代とは異なる重要な要素を持っていたのではないかと想像します。

武家社会の礼法として式正（しきしょう）料理が確立されたのもこのころです。一懇、二懇、三懇と酒を出し、膳を整える。酒と酒の合間に能や狂言を楽しむ。最高の式正料理は七の膳までであったそうです。結婚式の三三九度はその

筒井先生は、干利休は「一汁三菜」を徹底したと言います。派手にたくさんご馳走を出すのではなく、いかに心を込めているかを客に分かってもらえるように工夫したそうです。

旬のものを出し、温かいものは温かく食べてもらい、汁は熱いものを出した。麩や蒲鉾は重要なアイテムでした。今のように専門店

がない時代です。麩や蒲鉾を手作りするには何日もかかったため、客に「もてなし」の心が伝わったということなのでしょう。

「もてなし」は「処理」だった

名残りと言われます。

酒に合わせてその都度料理を出す、こうしたことを献立というのだそうです。

そして、とても食べ切れないほどの量のご馳走が出されると、家で待つ人のために持って帰るようになり、折り詰めの習慣ができた。厚く遇する「もてなし」の一つの形だったのでしょうか。

「もてなし」はさらに解釈が広がります。食べきれないほどの料理や珍しいものを誰もが出せるわけではありません。特に「侘び寂び」の茶道の世界とは相容れないような気がします。



日本の伝統文化の奥深さをあらためて感じるとともに、自分なりの「お・も・て・な・し」のヒントを得たような気がしました。

(ま)

《案内》

▼ニュース・時事能力検定 日本ニュース時事能力検定協会。11月23日（日）、富山市など全国で開催。5級（小学校）～1級（大学生・一般）まで。政治・経済・社会・暮らし・環境などから出題。申し込み締め切りは10月24日（金）。北日本新聞新川支社などに申込用紙。

▼ディナーコンサート 12月7日（日）ホテルグランミラージュ。主催・新川ムジーク・フラウエン。出演は中村誠一&紗理&フレンズ。一般1万円、会員は5千円。問い合わせはグランミラージュ24-4411

《ニコボックス》

▼10月にサケの遡上が10匹確認されました。今年他は他の河川でもたくさん遡上しているようです。（中川）

《今後の日程》

- ▼11月21日（金）
例会 卓話：黒川伸一地区R財団委員長（サンルート）
- ▼11月28日（金）
例会 卓話：藤岡栄二魚津工業高校長（サンルート）

《出席報告》

- ▼2942回 26人
73・52%
メイクアップ 生駒、中尾、愛宕
- ▼2940回
メイクアップ 仙丸、松井
修正出席率 77・14%

《誕生日》

- ▼杉野芳宏さん（11月26日）